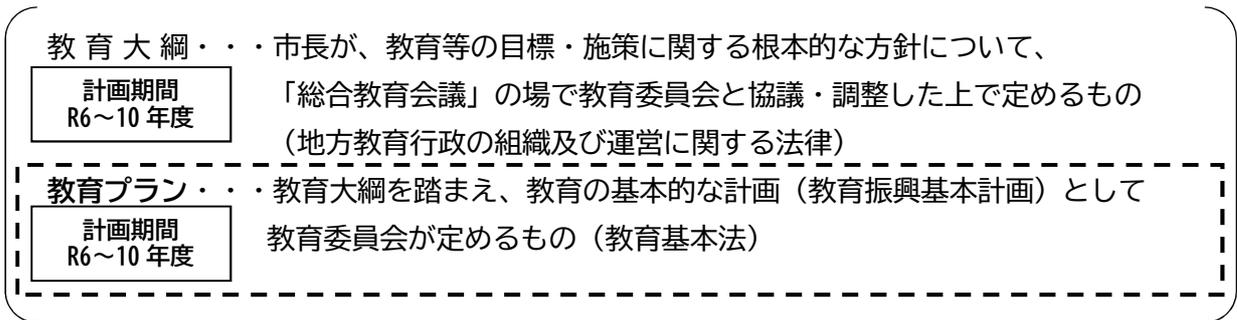


北九州市の次期教育プランの策定について（概要）

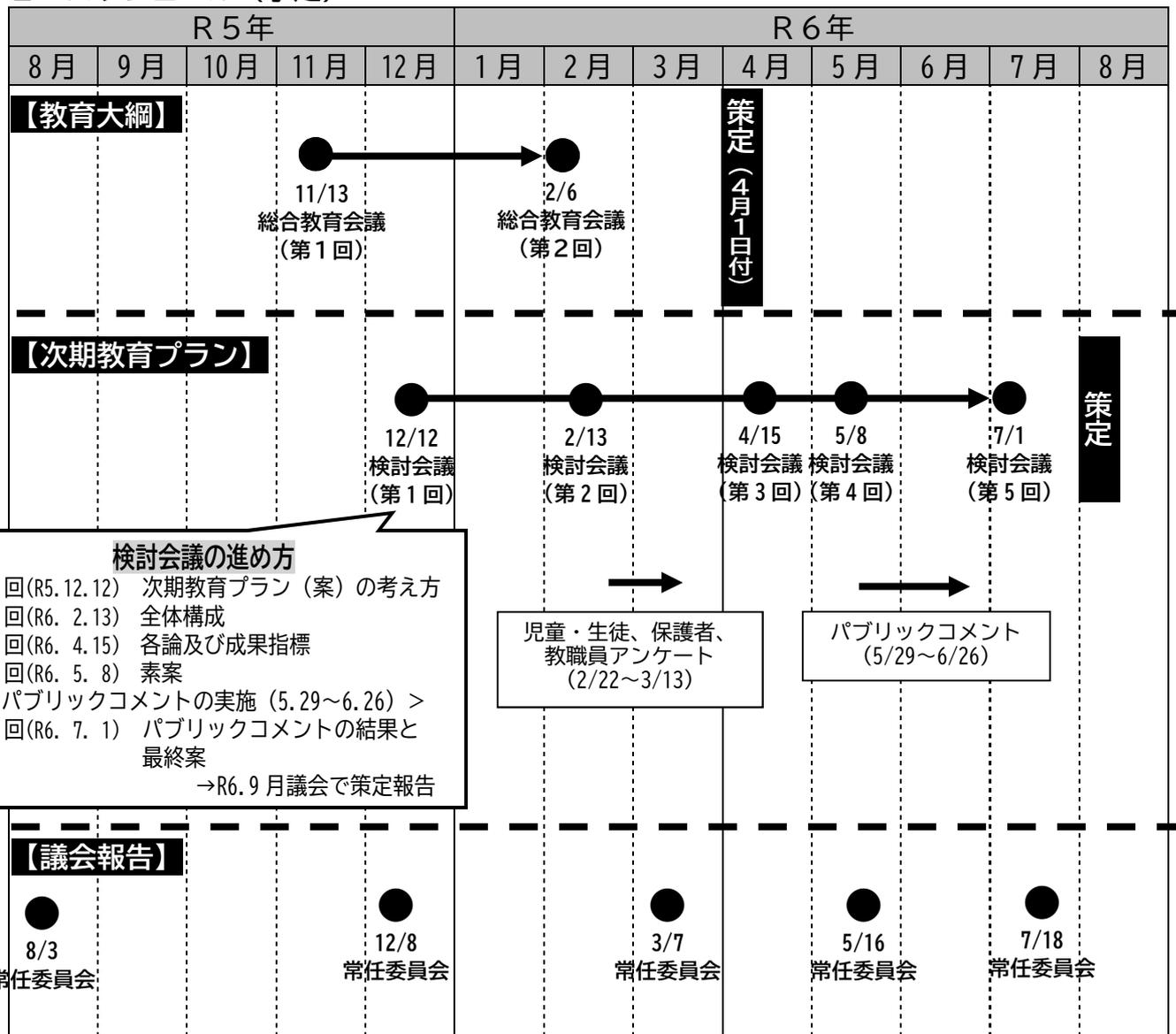
資料1

1 考え方

- 「第2期北九州市子どもの未来をひらく教育プラン（教育振興基本計画）」の計画期間が、令和5年度末で終了する。
- 次期教育プランは、以下の内容を踏まえながら策定する。
 - ・国の教育振興基本計画（令和5年6月閣議決定）
 - ・市の「新ビジョン（令和6年3月策定）」と「教育大綱（令和6年4月策定）」
 - ・「北九州市次期教育プラン検討会議」での議論
 - ・こども等の意見（アンケート）、市民意見（パブリックコメント）



2 スケジュール（予定）



北九州市こどもまんなか教育プラン（案）に対する 市民意見の結果について

1 意見募集期間

令和6年5月29日（水）から6月26日（水）まで

2 意見提出状況

(1) 意見提出者 120名

(2) 提出数 224件

(3) 提出方法

提出方法	メール	持参	オンライン
人数	5	10	105

(4) プランへの意見内訳

内訳	件数
プラン全体にかかること	17件
各ミッションに関すること	182件
1 全てのこどもにとって、「居心地のよい学校」をつくる	38件
2 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境を作る	18件
3 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める	87件
4 自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高める	23件
5 地域とのつながりの中で、社会全体でこどもを見守り支え、育てる	16件
その他	25件

(5) プランへの意見反映結果

内訳	件数
プランに記載済	79件
プランに追加・修正する	10件
プランに追加・修正しない	110件
その他	25件

北九州市こどもまんなか教育プランの市民意見とその対応

【プランへの反映】について
 ① プランに記載済
 ② プランに追加・修正をする
 ③ プランに追加・修正はしない
 ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
プラン全体に関すること			
1	「はじめに」に書かれた内容は、正にその通りだと共感できる。この方針に沿って施策が進むことを期待する。	学校と家庭や地域、企業、関係機関が連携して、北九州市教育大綱で示された、「こどもまんなかで質の高い教育環境」の実現に向けて、取組を進めてまいります。	③
2	とても素晴らしいプランだと思う。		
3	「こどもまんなか」は、可愛くて分かりやすい響きだと思う。		
4	こどもまんなかに大賛成。こどもが内申書を気にして、自分らしく過ごせなかったり、部活動の選択が自由にできなかった話を聞く。こどもが安心して楽しく学べる学校になることを望む。		
5	北九州市から多様な人材が輩出されている理由は、プランにあるように、こどもを伸び伸びと教育をさせようとしていることにあると思った。		
6	こどもをまんなかにした教育プランが作成されることに大きな期待を寄せている。「学校とはどんな場なのか」を皆で改めて考える必要を感じている。		
7	従来の学校観や当たり前と思っていることにとらわれず、学校だからこそできることの価値を見つけ、広めることができるプランだと思う。		
8	こどもの育ちは将来、未来への大事な投資なので、本プランの具体的な実行・実施を期待する。		
9	プランに対して異論はない。		
10	プランに関して特に意見はありません。		
11	大人目線のプラン案は無意味ではないか。	今回、全校のこどもたちや保護者、教職員にアンケートを取ったうえでプランを作成しています。今後も、こどもをはじめとするステークホルダーから意見聴取などを行い、施策に反映することで、実効性のある計画の推進を図ってまいります。	①
12	行おうとしている内容が、いまいわかりづらいかもしれない。	本プランやその取組を広く共有していくために、広報紙やホームページ、出前講演を通じた広報活動に加え、わかりやすいパンフレットの作成も検討してまいります。また、学校・教職員がプランの実現に向けて取り組めるような、ワークショップなども進めてまいります。	①
13	プランの内容と現場のギャップを埋める取組が必要ではないか。		
14	とても素敵なプランである。このプランを先生方がしっかり心にとめて、学校やクラス間の差がなくなるような仕組みや先生の教育が大切だと思う。	学校予算については、厳しい財政状況の中においても、必要な予算の確保に努めてまいります。人員の確保については、教職員にとって働き甲斐があり、誇りをもってこどもに向き合える環境をつくるとともに、なり手不足解消にも取り組んでまいります。	③
15	限りある財源の中で限界はあるだろうが、学校予算と人員はしっかりと確保してほしい。		
16	全体を通して、教職員負担の軽減のためには、きちんとした予算措置とそれを執行する教職員・各種専門員の確保と配置をしてほしい。	本プランではKPIを掲げています。また、毎年度、KPIや施策の取組状況について、点検・評価を行い、プランの進捗管理を行うとともに、その結果を踏まえて施策や事業の見直しを図りながら、効率的、効果的に取組を進めてまいります。	①
17	プランに書かれてあることが実現すれば素晴らしいが、数値目標がないため、効果や目標達成度の測定ができず、実現が難しい部分が多くなるのではないかと不安を覚える。		

【プランへの反映】について
 ① プランに記載済
 ② プランに追加・修正をする
 ③ プランに追加・修正はしない
 ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
【ミッション1】 全ての子どもにとって「居心地のよい学校」をつくる			
18	北九州市子どもまんなか教育プランは、少子化対策だけではなく、特にヤングケアラーや不登校児などにとって、とてもよい政策案であると感じた。特にミッション1の、全ての子どもにとって「居心地のよい学校」をつくるの案が印象に残った。ミッション1で良いと感じた点は、③学びの確保についてだ。③で掲げられている、ステップアップルームや、ICTを有効活用することによって、ミッション1の目的である、全ての子どもたちにとって居心地の良い居場所づくりになる。③が実行できれば、海外で暮らしていたり、障害を持っていたりなど何らかの理由で学校に通うことができない子どもたちでも授業を受けられるとても良い案である。一方、ミッション1全体を見てみると、どれも一朝一夕に行えるとは言えないため、優先順位を考え、実行に移すような流れを考える必要がある。	魅力ある学校づくりのために、人間関係づくりや、発達段階に応じたきめ細かい支援などに取り組んでいます。また、ICTを日常的に活用し、子どもたちの学習をより充実させ、質の高い教育を受ける機会の確保も進めています。優先順位についても意識して取組を進めてまいります。	①
19	プランで使われる「居心地のよい」という言葉は、子どもが安全に安心して過ごすことができ、受け入れられていると感じることができ居場所と定義されている。居心地がよいのは、人間関係の親和性と関係しており、親和性が高まれば居心地がよくなるが、一方で些細な違いも許容できなくなる面もあるため、「居心地のよい」という言葉は危険ではないか。	多様性を尊重し、一人ひとりの違いを認め合うことで、居心地のよい学校づくりにつなげていきたいと考えています。	③
20	「自分にとって生きていく上で何が重要か」、「大切にしていきたいものは何か」といったことを、現場の意見を汲み取って実行してほしいと切に願う。	今回、子どもたちや保護者、教職員にアンケートを取ったうえでプランを作成しています。各学校においては、「総合的な学習（探究）の時間」や特別活動などを中心に、将来に対する見通しや自己の生き方について考えさせる取組を進めています。	①
21	子どもが失敗を恐れている理由の深掘りをしてほしい。	今回、子どもたちや保護者、教職員にアンケートを取ったうえでプランを作成しており、失敗に関する質問も盛り込んだところです。今後も、子どもの意見を聴きながら取組を進めてまいります。	①
22	「子どもを枠にはめず」とあるが、学校では、例えば運動会で強制的にダンスをさせられきちんとやれるまで練習させている。誰ひとり置き去りにならないためには、個人が選択した種目を楽しめるとよい。	各学校においては、子どもたちの様々な資質・能力を育むために、発達の段階に応じて教育課程に沿った指導を行っています。引き続き、子どもたちが、自発的に楽しく活動できるような指導を目指してまいります。	③
23	発達に合わせた積極的な性教育や動物愛護教育を行ってほしい。		①
24	ミッション1の(2)①で「生命（いのち）の安全教育」ではなく、「生命（いのち）を知る・守る・育む教育」とした方が趣旨に合うのではないか。	国は「生命（いのち）の安全教育」という言葉を用いて教材や手引きを作成していることから、本プランにおいてもこの言葉を用いることとしました。また、各学校においては、教育課程を通じて、発達の段階に応じた包括的な性に関する指導を行っています。	③
25	性を考えるとき、生殖機能を知るとともに、人間としての大切な欲求の一つであることを学んでおくことは、人間を向上させる上で大事であるため、ミッション1の(2)①の文章を、「児童生徒が性欲を理解した上で生命を大切にすること」に修正してはどうか。	動物愛護についても、生活科では、生き物を育てることを通して命の大切さを学ぶほか、道徳科では、生命や自然に対する畏敬の念を学んでいます。	③
26	人が人らしく生きられるための人権教育も「思いやり」にとどまらない自分ごとの学習への転換が必要な段階にあると思う。特に子どもの権利については、子どもはもちろん、大人への理解促進が重要。	独自の教材やプログラムを作成し、学校における人権教育の推進を図っています。これまでの取組を継続させながら、関係部局と連携し、保護者等への周知・理解を広げてまいります。	①
27	ミッション1の(2)③の文章で、「道徳的に向き合い」を「道徳的（主体的かつ倫理的）に向き合い」を付け加えたらわかりやすいのではないか。	道徳教育において、子どもたちが主体的に自らの考えを深めるとともに、人間としての生き方を考えさせる学習等を行っており、ご指摘の内容も含まれています。	①
28	自分で考えて行動でき、幸せを人に分けられて、みんなが笑顔で繋がりを感じられる素敵な環境が増えると思う。		
29	餓死や人権差別など、その人の人生に暗い影を落とす出来事が起きないように、教育の段階で予防線を張る意味でも、道徳の授業は重要だと思う。	自分も周囲の人たちも幸せを感じ誰にとっても安心・安全に過ごせる学校生活を送ることができるよう、道徳教育を充実してまいります。	①
30	心理的安全性が高いという意味の「安心安全の場」をつくるには、相手がどんな態度なら安心安全と感じるかを話し合ったり、それを実際に体験をすることで、多くの気づきが得られるのではないか。		
31	市立学校のトイレを清潔な洋式トイレに整備してほしい。	学校トイレに関しては、洋式率の低い学校から、小学校低学年が利用するトイレを優先して毎年10校程度ずつ洋式化改修を行うほか、校舎全体の大規模な改修を行う際にも洋式化改修を行っています。	①
32	我が子が通う中学校の冷房が効いていないうえに、扇風機も壊れており、毎日汗だくで帰ってくる。しっかりと点検や修理をして改善してほしい。	修理に日数を要することもあります。冷房を含む学校の空調機器については、学校における点検で故障等の不具合があれば、すみやかに修繕・改修等を行い、良好な学習環境の維持に努めています。	③
33	学校の空き教室に、放課後等デイサービスの施設を入れてはどうか。企業にとっては場所の確保になり、学校にとっても空室の利用になり、保護者にとっても学校内で子どもを見てもらえるなど、メリットの方が多いと思う。	学校施設は、営利目的の場合は許可ができないため、現行では放課後等デイサービスに許可できない一方、特別な支援を必要とする子どもたちの放課後の活動の場として重要であるため、今後、研究してまいります。	③
34	子どもの運動能力向上のために、野球、サッカー、バスケ、バレー、テニス共有の壁打ちを各学校に設けるなど、一人でも練習できる環境整備が必要。	学校設備は、教育課程に沿ってできるだけ多くの子どもたちに必要なものを優先して設置するようにしており、特定の場面で使用する設備は、十分な検討が必要です。	③
35	不審者の情報が多く、車で子どもを迎えに行きたいので、学校の駐車場を増設してほしい。	原則、徒歩での登下校をお願いしており、駐車場を増設する予定はありません。子どもたちが安全に登下校できるよう、保護者や地域と連携しながら、通学路の安全対策を充実させてまいります。	③

- 【プランへの反映】について
- ① プランに記載済
 - ② プランに追加・修正をする
 - ③ プランに追加・修正はしない
 - ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
36	防犯カメラや暗い場所の街灯など、安心して遊べる学校そしてまちづくりを進めてほしい。	学校施設の安全・安心対策については、老朽化対策やバリアフリー化など施設整備事業全体の中で優先度等を勘案しながら取り組んでいます。また、北九州市では、防犯カメラなどの設置費用の経費の一部を補助し、地域の防犯活動を支援しています。さらに、「北九州市通学路交通安全プログラム」に基づいて、学校・地元・警察・行政が協働して市内の通学路の安全点検や安全対策を行っています。暗い場所への街灯についても、設置の可否も含め検討し対策を行っております。	①
37	アンケートの結果、子どもたちが登下校をあまり楽しいと感じていないようなので、道路を整備したり、駐輪場の料金を下げて車の交通量を減らすといった交通施策を行ってもよいのではないかと。		③
38	子どもの数に限らず、何らかの理由があれば、引越しをせずに違う校区の学校を選べるとよい。	原則として住所地の通学区域に基づき就学すべき学校を指定していますが、相当の事由がある場合に限り、指定校以外の学校への就学を認めることがあります。	③
39	校区外申請をする場合、事情が変わらなければ、毎年申請しなくてよいようにしてほしい。	また、終期が決まっていない場合などは、年度ごとに、事由の継続の確認が必要になります。	
40	新入生にとって、入学時に仲良くしている友達がいると安心して学校に行けると思うので、小学校、中学校が同じ距離で何校がある場合は選べるようにしてほしい。	学校を計画的に運営することを目的に、住所地によって就学する学校が決定される「指定校制度」を採用しており、住所地の指定校への通学を原則としています。	③
41	校区に関係なく、通える範囲なら校区外申請せず通学させたい。		
42	数十年前の校区及び通学路のまま、見直されていないことが疑問。私の居住地は小学校校区の境目で、ほとんどの子どもはA中学校に行くが、私の子どもだけB中学校へ行く状況である。多感な時期に、知る顔が1人もいない学校へ行くのは酷だと思う。小学校の合併などで決まった校区だろうが、中学校に進学することも踏まえて検討してほしい。とても難しい事案だろうが、このような意見があることを知ってほしい。	現在の通学区域は、子どもの教育環境だけでなく、地域とも密接に関わっており、変更にあたっては、地域の皆様の同意が必要で、様々な内容を確認しながら検討しています。ご意見は、校区を検討する上での参考とさせていただきます。	③
43	公立高校の校区を無くしてほしい。校区の制限があるため、行きたい学校に行けない。住んでいる場所に限りなく自由に選ぶことができると思う。	北九州市立高校は福岡県内全域を校区としています。他の公立高校の校区はそれぞれの自治体が決めています。	③
44	授業妨害をする生徒がいるなどクラスが荒れており、まじめに勉強したくてもできない。保護者も先生も、子どもが安心して学校生活を送れるように協力すべき。	子どもが安心して学校生活を送れるよう、保護者と対話し意向を聞くなどの関係づくりを大切にしています。	③
45	子どもを尊重するのは大切だが、危ないことや人に思いやりの足りないことをした時に、きちんと叱ってあげることができる学校教育をお願いしたい。		
46	子どもが通う小学校には、いろんな子がいて良いと思うが、遅刻や宿題忘れ、悪口、ゴミをその辺に捨てる子には、大人になって社会に出る前に「人としてダメなモノはダメ」と諭してほしいと思う。ダメな多様性は論外だと思う。子どもたちのためにも、先生や学校のためにも、カスハラに近い親御さんの意見をおさえる権限が有ってよいと思う。	子どもが人に対して思いやりの足りないことをした時などには、是は是、非は非とする毅然とした態度で対応しています。また、保護者の方に対しても協力が得られるよう努力しております。ご意見は、今後の参考とさせていただきます。	③
47	多様性の時代なので、小学生はランドセル以外のかばんを選べるとよい。	ランドセル以外を選ぶことも可能です。	③
48	埼玉県日高市立武蔵台小中学校が制服の自由化をした。我が家の中学生の子どもも、制服を着ることがたると言っている。制服は、個性を縛り、個性的であるということの否定する大きな原因である。個人が着心地のよいというものを着用すべき。		
49	子どもが通う予定の中学校の校則を知り、他校へ受験を決めた。中学生になると、たくさんのお金を大人から強制・矯正されることに子どもは気持ち悪さを感じている。私立学校は校則がかなり自由で、色や靴、体操服などは自由、メイクも派手でなければ許可されており、生徒はむしろ優秀でのびのびしている。自由な身だしなみは、子どもが自信をつける方法のひとつだと思う。	校則は、「教育的意義を有するもの」である一方、子どもたちが校則の意義を理解し、自分事として捉え、主体的に遵守する過程が大切であるため、生徒会などの場で、校則の確認や議論の機会を設けるなど、子どもたちの意見が反映された校則となるよう、見直しを進めてまいります。また、その考え方をプランにも追記します。	②
50	主体性という割には、ルールに縛られてみんなと同じようにしなさいと言われていたような気がする。		
51	小学校は服装も髪型も自由なのに、中学校に入った途端に、ブラック校則で縛られるのか。生徒自身の個性の尊重や創造性の育成、心理的安全性の確保ができているとは言い難い。		
52	重たい学校教材の持ち帰りを廃止してほしい。	各学校においては、学級担任が、学習計画を工夫し、荷物の分散化や、各学級のロッカーなどに置いて帰宅させるなどの配慮を行っています。	③
53	「好きなきにきたらいいけん」みたいな感じで、気軽に立ち寄ることができて、同年代の子どもと一緒に頑張れる環境を作してほしい。	学校や教育支援室など、今ある居場所の居心地の向上を図るとともに、フリースクールとの連携など、子どもたちの状況に応じた居場所づくりや学びの機会の確保に努めています。	①
54	家では勉強できず、メディアに集中してしまうため、小倉北区には、静かな環境で勉強できるスペースや広い公園などがもっと必要。	また、市立図書館でも、多世代の居場所になるよう取組を進めています。加えて、北九州市では、「ユースステーション」をはじめ、一部の市民センターなどの公共施設を開放し、子どもたちが、学習や遊びなど、自由に過ごせるための居場所づくりを進めています。	
55	地域ごとに無料・低額のフリースクールなどを作ってはどうか。		③

- 【プランへの反映】について
 ① プランに記載済
 ② プランに追加・修正をする
 ③ プランに追加・修正はしない
 ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
【ミッション2】 こどもが失敗を恐れず挑戦し、志と人間力を高められる環境を作る			
56	教育で大事なことは、こどもが「自信をつける」「自分で考える力をつける」だと思う。自信をつけるためには、小さな成功体験の積み重ねができる仕組みや、自分で考える力をつけるために答えのない問いを授業に組み込むといったことが見えるようになると、素敵な北九州市の教育プランになると思う。	運動会等の行事を通じて、こどもたちが成就感や達成感を味わえるよう内容を工夫しています。また、授業においても、こどもたちが自ら考えることができるように、発問の工夫など授業改善に努めています。	①
57	こどもが失敗を楽しめるとあるが、実際には教員の指導通りにしなければ怒られ、減点される。学習指導要綱を抜本的に変えなければ そのような姿にはならないのではないかと。	学習指導要領は国が定めているため、市が抜本的に変えることは難しいですが、学習内容の意味や理解を深める点で、こどもの失敗や誤答を生かして授業を展開することを大切にしています。	③
58	社会人でも、自分で意見を言う力が必要になる。北九州市では、それをこどものうちから養う教育をすることがすごいと思う。		
59	こどもたちが何らかの問題解決をテーマに、少人数で自分の気持ちや意見を表現できる場をつくれるとよい。そうすると、こどもたちは学校を居場所にとできると思う。	今後も、様々な学習機会を通じてコミュニケーション能力や積極性など、自分の考えや気持ちを積極的に伝えるこどもの育成に取り組んでまいります。	①
60	こどもまんなかで質の高い教育環境を充実させるためには、心理的安全性が保たれて信頼関係が築かれた教室が求められる。そのためにも、コミュニケーション力を育てるカリキュラムを導入してはどうか。		
61	社会に必要なコミュニケーション能力の向上や教職員という職業に興味を持ってもらうため、授業の一環として、中学生が小学校に出向いて授業をする出前授業をしてはどうか。	職場体験学習で、中学生が小学校で先生体験をしたり、小中一貫・連携教育の一環として、中学生が小学校へ行き、学習のサポートを行っています。	①
62	高校や大学入試の内容が変わらないと、知識伝達からの脱却はあり得ない。北九州市だけが夢理想な教育改革をしたところで、こどもや家族を悩ませる改革になる。北九州の公立高校の入試制度だけでも改革的に変わらなければならない。調査書や偏差値にとられる入試は、知識詰め込み型としかならないので、得意を伸ばし、興味を膨らませるための施策を検討してほしい。	北九州市立高校では、入試改革に取り組んでおり、特色化選抜入試では、答えのない問いに対して、初めて出会った他校の受験生達と、話し合いを通して新たな価値を創造していく力を問う問題を出題しています。	①
63	「ひまわり学習塾」というのがあるようだが、ほとんど認知されていない。自分のこどもが通う学校で行われているかや申込み方法などを、各学校から家庭へ周知してほしい。	学校を通じて各ご家庭に周知しているところですが、より分かりやすい説明を心がけてまいります。	①
64	こどもが家庭の中で安心して過ごせるように、放課後に友達と仲良く兄弟のように過ごせるような体験をしてほしい。		
65	塾や習い事の費用を市が助成すべき。		
66	芸術に触れる機会を増やすため、絵画、書道、ピアノ、陶芸など芸術系の習い事に対する月謝を補助してはどうか。	教育委員会では、こどもたちの補充学習を目的とした「ひまわり教室」を実施しています。	
67	習い事のような選択型体験教育などを無償化することで、こどもなら、誰もがどんな習い事でも選択でき、将来の幅や夢もひろがると思う。	また、モデル校において放課後の活動・体験プログラムを実施することにより、こどもたちの非認知能力（コミュニケーション力、創造性など）の育成につなげる取組も推進しています。	③
68	放課後に学校へ外部講師を呼ぶなど、移動せずに習い事が出来るようなシステムがあればありがたい。	ご意見は、今後の放課後事業等のあり方の検討の参考にさせていただきます。	
69	塾や習い事への補助ができれば、格差なくこどもの才能を育めるのではないかと。		
70	夏休みや冬休みは学校を開放し、宿題や復習、自由な遊びができるとうい。		
71	失敗を恐れず挑戦するこどもたちを育てるには、失敗を恐れず挑戦する大人の姿を見せる事が大切だと思う。起業家など、失敗を恐れず挑戦してきた方の考えに触れる機会を増やしてほしい。	未来の起業家やチャレンジ精神を持つ人材を育成するため、若い起業家・スタートアップ経営者との交流、社会課題解決に主体的に取り組む「ワークジョブ」の開催などの、アントレプレナーシップ教育を推進することとしています。	①
72	小倉北区の図書館に行くと、「そこに座らないで」と言ってくる人がいる。そんな環境には行きたくない。	中央図書館では、学習室において、ご利用席を指定する等しており、警備員等から、座らないようにお声がけする場合があります。ご意見は、今後の参考とさせていただきます。	③
73	ミッション2の(4)②に、「図書館司書の職員の正規化を図る」という文言を入れてほしい。	図書館司書については、司書としての能力を発揮できるよう適切な配置に努めてまいります。	③

【プランへの反映】について
 ① プランに記載済
 ② プランに追加・修正をする
 ③ プランに追加・修正はしない
 ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
【ミッション3】 誰一人取り残さない学びと、未来を見据えた先端的な学びを進める			
74	義務教育では「勉強が楽しい、好きだ」と思わせる授業をしてほしい。	子どもたちの学び合いや主体性を引き出す授業改善を行い、学習に興味・関心をもって取り組めるようにしてまいります。 また、1人1台端末を用いて個別最適な学びや協働的な学びを推進し、子どもたちがより学習を楽しく進められるようにしてまいります。	①
75	学校を通じて、子どもには多様な価値観や存在と触れる機会を提供してほしい。	学校教育全体を通じて、自らの考えだけでなく、他者と協働しながら多様な意見を踏まえ、自らの考えや行動について考える授業を行うとともに、協働的な学びの中で、多様な価値観や存在と触れる機会を作ってまいります。	①
76	子どもの自主性を伸ばしたいので、学校が一方向的に均一の宿題を出すことは廃止し、代わりに学校が用意した複数の復習プリントを子どもが自ら、自分にあった量のプリントを選んで家で自習する体制に変更してほしい。	担任の教員などが子どもたちの学習の様子を見取り、宿題を決める中で、個別最適な学びを意識した宿題の例も出始めています。今後も状況に応じて改善に取り組んでまいります。	③
77	猛暑日は宿題をなしにしたり、週に1日程度、宿題がない日があるとよい。		
78	中学卒業までに、自発的な学習ができるようになる、資格試験に慣れ受かるように適切に努力ができるようになるという教育方針を追加することを求める。	現在各学校では、「知識・技能」や「思考力、判断力、表現力」とともに、「学びに向かう力」を育むことができるよう学習改善、指導改善に努めています。また、自ら課題を見つけ、解決を目指す学習も進めています。	①
79	座学中心ではなく、実戦や体験が中心の学びを小学校で行ってはどうか。	現在各学校においては、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等において体験や活動を伴う授業を行っており、子どもたちの探究的な学びが推進されるよう、取り組んでまいります。	①
80	商店街と連携して、実際の空き店舗を使いながら活用を考える授業をするなど、地域との関わりを交えながら、学校外の人から色々なことを学べる機会があるとよいのではないかと。		
81	天才や能力がある子どもの力を引き出す教育環境を整えてほしい。	子どもの学習状況に合わせ、より発展的な内容に取り組むことや、基礎的な内容を学び直すことなど、指導の個別化を図ることは大切であると考えています。多様な力をもつ子どもたちが自分の力を十分に発揮できるよう、授業改善を進めてまいります。	①
82	自律神経のバランスが整うと聞くので、朝に楽しい曲や大きな声で歌ったり踊る時間があるとよい。	朝学習においては、教科学習や読書などに加え、歌を歌うなどの活動を行っている例もあります。今後も子どもたちが生き生きと学べる環境づくりに取り組んでまいります。	③
83	学力に応じたクラス分けをしてはどうか。	学力によるクラス分けは、個々の学習の状況に応じた授業につながるメリットがある一方、自分の学力に固定観念をもつなど負の影響も考えられます。ご意見は、今後の参考とさせていただきます。	③
84	定期テストのたびに、成績順にクラスの中身を入れ替えるとういのではないかと。		
85	他県から引越してきたため、学校の様子を知る機会がない。入学前の希望者に体験入学の機会を設けて、授業や給食に参加できる機会があると安心できる。	転入の際は、校長などから学校の様子を伝えたり、校内見学などの対応を行っています。授業や給食体験は、教育活動との調整やアレルギーへの対応等が必要で、容易ではありませんが、円滑に新しい学校になじめる配慮を検討してまいります。	③
86	学校にとって、セキュリティの問題があるのは分かるが、他県からの移住者や小、中学生の親には、学校の事情が解らないことがあり、知らない学校には入れない・入りにくいという気持ちになる。学校を知る機会を検討してほしい。		
87	う歯や浮き足、肥満、摂食障害、視力低下、体力低下、睡眠障害、ゲーム依存、スマホ依存などの改善には、保健指導の徹底し、子どもへの継続的な指導・見守りと教員や保護者への丁寧な説明が必要であるが、1名の養護教諭だけでは人的リソースが圧倒的に足りていないので、教員や医療関係者などと連携した仕組みづくりが必要ではないかと。	養護教諭の負担を軽減できるよう、学校医等をはじめとした専門職や家庭との連携強化に努めてまいります。	①
88	ミッション3の③(健康の保持)で、特に、体操、ダンス、マラソンなどの自発的で楽しい運動ができる教育環境を求める。	各学校においては、運動会などでダンスを発表したり、マラソン大会を実施するなど、地域の実態に応じて楽しく運動ができる環境を整えております。	③
89	ミッション3の(1)④で、学校給食応援団や地産地消の推進などの取組などを活かすためにも、文章を「食育の充実を図る」を「栄養士による食育の充実」に書き変えるとともに、給食の直営化の可能性にも言及すべき。	食育は学校教育の一環として、学校給食をはじめ、他の教科も含めて学校全体で取り組んでいます。 また、本市は段階的に調理業務の民間委託を進めており、毎年の業者評価や子どもたちへのアンケート等を通じて、検証・確認を行うなかで、順調に運営できていると考えています。	③
90	よくまとまっているところが多いプランだと思う。特に給食の改善がよい。		
91	北九州市の小学校の給食は美味しくないことで有名で、他県と比べるとかなり食相だと聞いた。物価も高くメニュー作りも大変だと思うが、子どもたちが給食を楽しみに学校に行けるようにしてほしい。	令和6年度から「おいしい給食大作戦」と題して、大学や料理人の方々などで構成する「北九州市学校給食応援団」から、専門的な助言をいただくなどの取組を開始しております。 今後も、これまで以上においしい給食を提供できるよう努めてまいります。	①
92	給食のおかずが少ないのではないかと感じる。給食費を上げていいので、おかずを増やしてほしい。	学校給食は、国が示す実施基準に基づき、必要な栄養を過不足なく摂取できるよう献立作成を行っています。本市としては、様々な取組を通じて内容を充実させるなどして、これまで以上においしい給食を提供できるよう取り組んでまいります。	③
93	給食費を無償化してほしい。		
94	学校給食を無償化してほしい。		
95	子どもたちを支える根っここの部分である、給食の無償化を希望する。	子育て世帯の負担軽減のため、国の交付金を活用し、食材価格の高騰に対応している一方、限られた財源の中で、市独自の無償化や一部補助は困難であると考えています。	③
96	給食費の無償化。全員への対応が財政上無理なら、低所得世帯や2人目以降無償などで対応してはどうか。	そのため、国に対し、学校給食費の保護者負担軽減を要望しています。	
97	給食の食材を有機農産物のものに変えてほしい。	有機農産物は、一般の農産物に比べて流通量が非常に少なく価格が高いという課題があるため、学校給食への活用は、引き続き研究してまいります。	③

- 【プランへの反映】について
 ① プランに記載済
 ② プランに追加・修正をする
 ③ プランに追加・修正はしない
 ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
98	災害にも強い自立したこどもが増えるとよい。そのためには、日本の風土にあった農業の歴史と知恵の継承が必要。米の性質や栽培を体験し、実際に給食で食べ、災害時に役立つ新で炊飯、持ち運びや保存ができる加工や販売までを学ぶ授業やイベントを行うてはどうか。	給食は市内統一献立のため、実施は困難と思われませんが、今後の参考とさせていただきます。また、防災時の保存食の学習やその活用方法を考える活動、北九州市が行うイベントなどを通じた理解促進の手法についても、今後の参考とさせていただきます。	③
99	災害にも強い自立したこどもが増えるとよい。そのためには、塩の性質や減塩による健康被害を学ぶとともに、海から海水を汲み上げ、鍋で煮あげる体験をするとともに、海塩を給食で実食できるとよい。		
100	我が子は重度の食物アレルギーがあり、外食も厳しく、学校には毎日お弁当を持参している。みんなと同じイベントに参加したくても、お土産のおやつが食べられずがっかりすることがあるため、アレルギーを持っているこどもも、安心して参加できるイベントや、引け目を感じずに楽しめるように生活が出来るようになるとうい。	学校行事は、各学校の実情に応じて決定しています。内容の検討にあたり、食物アレルギー事故の防止に加え、食物アレルギーを有することもたちへの配慮を含め、すべてのこどもたちが安心・安全に学校行事に参加できるように努めてまいります。また北九州市では、食物アレルギーに対応できる飲食店等の検索ができる仕組みをつくるなど、食物アレルギーを含めた食に関する理解を深めるための取組を進めてまいります。	③
101	給食の除去食は、細かく対応ができるようにしてほしい。	食物アレルギー対応給食は、アレルギーの原因となる食材等に応じて「単品の一部取除き」「副食の一部取除き」「除去食」の方法で行っております。現在の施設や設備では、除去食の対象献立は限られ、病院で実施されるような厳密な除去食は困難となっております。いただいたご意見を参考にさせていただきます、引き続き、安全安心な給食の提供に努めてまいります。	③
102	給食において、家からはしなどを持ってくるのではなく、学校で準備してほしい。	はしは自分の手の大きさにあった長さのものを使うことが大切であると考えています。ご意見は今後の参考にさせていただきます。	③
103	このプランでは、小学校と中学校の連携が考えられているのか。	ミッション3(1)⑤(小中一貫教育の推進)に記載のとおり、小中一貫教育の推進を図ってまいります。	①
104	ミッション3の(2)①の中に、新たに「〇いじめに対抗する具体的な力を身に付けさせる。」という項目を追加し、教育の一環として、こどもにいじめに対抗するようにしてほしい。	学校の教育活動全体を通じて、「心の通う人間関係を構築する能力を養う」「ストレスに適切に対処できる力の育成」「自己有用感や充実感を感じられる学校づくり」を行い、いじめの未然防止に取り組んでまいります。	③
105	心の育ちやいじめ、不登校問題に対する取組を強化してほしい。	いじめ、不登校問題への対応は非常に重要と考えており、取組をプランに記載するとともに、常に現状を把握し、改善・強化に向けて取り組んでまいります。また、手法については、今後も研究してまいります。	①
106	フリーアドレスの会社のようにクラスの席を朝来順に選べたり、席替えを頻繁に行うことで、いじめの防止につながるのではないか。		③
107	いじめに対する対応策を見える化するべき。いじめられたときの相談窓口が公になっているか。また、場合によっては、警察や弁護士に相談できる仕組みが必要。	いじめなどの相談窓口については、市のホームページなどで公開しています。また、学校警察連絡協議会やスクールロイヤーなどの取組を通じて、警察や弁護士と連携して対応に当たっています。	①
108	不登校は学校や先生の問題が約2割ほどあり、様々な要望をしても変わらないところがあるため、権利擁護委員や第三者が是正勧告をするなど、実行性のある仕組みが必要と考える。	不登校に対して、学校では関係機関(スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等)と連携し、それぞれの専門性を生かした支援をしています。第三者を活用した仕組みづくりについては、北九州市の実情に合った取組や体制について、関係部局と協議しながら研究してまいります。	③
109	フリースクールが公立の学校の当たり前になると良い。不登校や発達障害のこどもが増え、その対応に行政も学校も力を注いでいる印象はあるが、そのための対策ではなく、こどもが選べる教育が、誰でも普通にできるシステムになれば、わざわざ取組まなくてもそれぞれの学校生活が送れるのではないか。	学校や教育支援室など、今ある居場所の居心地の向上を図るとともに、こどもたちの状況に応じた居場所づくりや学びの機会の確保に努めてまいります。	①
110	各区小中学校の空き教室を教育支援室のサテライト教室として活用したり、塾との連携や学校を超えた特別校の設置など、不登校のこどもに対する独自の教育課程を編成してもいいのではないか。		
111	夜間中学校「ひまわり中学校」を、学齢期で不登校のこどもも対象にしてはどうか。	学齢期で不登校のこどもについては、ステップアップルームや教育支援室、ICTを活用した支援を進めております。プランに掲げた学びの機会の確保に向けて、よりよいあり方を今後も検討してまいります。	③
112	ステップアップルーム(適応教室)の中で、適応力を身に付けさせるためにも、美術・表現体験や遊び体験、他者交流体験など、今の時代に合いながらも、常識にとらわれない、新しい考えの実践活動を行ってはどうか。	一人一人の状況に合わせて「また来たい」と思えるようにステップアップ支援を行っています。ご提案のあった、美術・表現体験や遊び体験、他者交流体験などは、目的にあっている一方、人や場所の確保の課題もあります。こどもたちの意見を聞きながら、活動計画などを工夫してまいります。	③
113	こどもたちが平等に教育を受けられるように、ヤングケアラーをもっと認知してほしい。そして、ヤングケアラーに協力的な体制を作してほしい。	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用して、学校でヤングケアラーのこどもを早期発見できるよう取組を進めています。また北九州市では、ヤングケアラーの周知について、研修や学校へのアウトリーチなどを行っており、今後も認知度に取り組んでまいります。支援については、多機関・多職種との連携が必要であるため、引き続き、関係機関と連携しながら対応してまいります。	③
114	インクルーシブ教育の趣旨は理解できるが、特に外国籍の生徒を理解する上では、言語や文化などの理解にかなりの努力が必要だと思う。現場の先生や生徒だけに負担がかからないように行政がどうサポートしているかを、愛知県や埼玉県川口市など、外国籍の生徒が多いと言われる自治体を研究してほしい。	帰国・外国人児童生徒教育センター校に専任教員を配置し、外国籍のこどもの受入体制の整備を図るとともに、適応指導・日本語指導の実践研究などを行っています。外国籍のこどもが多い自治体のサポート体制については、引き続き、研究を進めてまいります。学校が全てのこどもにとって、居心地の良い場所となるよう、こどもの多様性を尊重する考え方を追記します。	②

【プランへの反映】について
 ① プランに記載済
 ② プランに追加・修正をする
 ③ プランに追加・修正はしない
 ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
115	障害があることもたちを置き去りにしないでほしい。支援学級に進みたくても進めない、支援学級に進んでも学校全体の先生の理解の少なさに悲しい思いをすることが多い。	教職員の専門性向上など、校内支援体制の充実に努めるとともに、障害のあることもたちと障害のないこともたちが可能な限り共に過ごすための条件整備と、一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びの場の整備を両輪にインクルーシブ教育システムの実現を目指してまいります。	①
116	発達障害のこともたちも、普通のこともたちと同じように楽しい思い出が作りたい。障害がある家族が安心して見れる場所を確保したり、年に一回でいいので、プールや遊び場も障害がある人が利用しやすいようにしてほしい。	また北九州市では、障害があってもスポーツに親しめる社会環境の整備を推進することとしており、今回のご意見も踏まえて取り組んでまいります。	
117	小学生の夏休みの体験ボランティアや、祇園太鼓の体験は色々な勉強になってよいと思う。		
118	公共図書館や郵便局など、校外へ出向く見学学習をしてほしい。		
119	職場体験は、学校が候補を事前に決めるではなく、子どもたちに選ばれることで、「自分で考える」、「やりたい」という気持ちを育てるのではないかな。		
120	アンケートの結果、子どもたちが授業をあまり楽しいと感じていないようなので、公園に日時計を設置したり、巨大な航空写真を設置するなど、学びの場は机の上だけでなくことを示してもよいのではないかな。		
121	行事の廃止・縮小ばかりで思い出になるようなことや経験できることなどが、どんどん減って思うように思う。子どもたちから経験する場、将来への自信につながる場、挑戦する場、夢を持つ場を減らさないで欲しい。		
122	定例行事や校外学習の機会が減って、子どもたちがとても残念がっている。		
123	子どもまんなか教育プランといつつ、今まで出来ていた校外学習などが減るのは本末転倒ではないかな。	本プランでも体験活動を重視しており、地域や企業と連携した体験活動の実施や、慣例的に行ってきた行事の精選を行いながら、必要な体験のあり方を今後も工夫してまいります。	①
124	先生の負担を減らすために子どもの体験や経験を奪う事は本末転倒。挑戦して学びを深める、実際の体験こそが子どもにとって重要である。		
125	校区によって、遠足の質が違うことに疑問を感じる。同じ公立の学校なのに不公平ではないかな。		
126	農家と連携した体験の機会をつくってほしい		
127	田植えや収穫などの部分的な体験ではなく、継続して農作物を育てる体験、豊かな海での釣り体験、魚をさばく体験など、北九州市の豊かな自然に子どもが触れる機会がもっとあれば嬉しい。		
128	前の教育プランや国の教育振興基本計画には、文化芸術の推進に係る言及が数多くみられるが、文化芸術の重要性の言及や積極的な鑑賞・体験機会の増加などの記載は全くないので追加すべきではないかな。追加するのであれば、前の教育プランや国の教育振興基本計画を踏まえて、しっかりとした言及が必要だと考える。		
129	ある中学の体育大会のプログラムが少なすぎると感じており、あまり納得がいかない。プログラムを変更するときに子どもや保護者にとったのか。教職員の労働環境の改善を進めるべきだが、子どもたちの思い出になる時間を削ることに疑問を感じる。	近年、熱中症による救急搬送が相次いで起こっていることを踏まえ、体育大会の開催時期や時間、プログラムにおいて、子どもたちの発達段階（体力）に応じたプログラムを実施しています。	③
130	子どもたちが平等に教育が受けられるように、給食費や校納金等を国や県・市で負担してほしい。そして、お金を支給するのではなく、子どもたちがちゃんと学校に通えるように、直接学校などに入る仕組みにしてください。	直接的利益が子どもたち個人に還元されるものにかかる経費については、保護者にご負担いただいております。今後も負担が過大とならないよう、努めてまいります。	③
131	子どもが安心して挑戦し、失敗を楽しめる環境にしてあげたいので、高校の授業料無償化の所得制限を無くしてほしい。	「高等学校等就学支援金制度」は国の制度です。市は国に対し、「指定都市教育委員会協議会」を通じて、同旨の要望を行っています。	③
132	保育、幼稚園から大学まで無償化を希望する。	経済的に困窮している世帯で、市立小・中学校及び県立中学校への就学が困難と認められる子どもの保護者に対し、学用品費や通学費等の就学に必要な経費の一部の補助を行っています。また国が、幼稚園、保育所、認定子ども園等を利用する3歳から5歳までの子どもの利用料を無償化しています。北九州市では、経済的負担の大きい多子世帯の不安軽減を図るため、令和5年12月より、子どもの年齢に関わらない、保育料の第2子以降無償化を実施しています。	③
133	高校生まで、通学にかかる交通機関を無償化すべき	経済的に困窮している世帯で、市立小・中学校及び県立中学校への就学が困難と認められる子どもの保護者に対し、学用品費や通学費等の就学に必要な経費の一部の補助を行っています。また、市立小・中学校の統合により、通学距離が3kmを超えることに対しては、通学に要する通学定期券の交付等を行っています。	③
134	子どもに豊かな学びの機会を与えられるラーケーションを導入してほしい。	校外での豊かな経験を通して主体的・体験的な学びを得ることが期待される一方、その間の学びの保障といった課題も考えられます。多様な学びの手法については、今後も研究してまいります。	③
135	子どもが成長する上で、家族と過ごす時間は大切である一方、学校に通うこともと親の仕事の休みが合わず困っている。年に2～3日程度、気兼ねなく学校を休める制度があるとよい。		
136	イエナプランの導入を検討してほしい。		
137	ある1つの学校を特区のようにして、これからのモデルとなるような特徴的な教育を行ってほしい。	各学校では、創意工夫ある学びの実現に取り組んでいるところです。多様な学びの手法については、今後も研究してまいります。	③

【プランへの反映】について
 ① プランに記載済
 ② プランに追加・修正をする
 ③ プランに追加・修正はしない
 ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
138	市内全ての小・中・高校で、リーディングスキルテストを一斉実施してはどうか。	学校では、国語の授業等で文章を正しく読み取る力を育成しています。子どもたちが必要な読解力を身に付けることができるよう、今後も指導の工夫を継続してまいります。	③
139	2学期制に賛成だが、秋休みは、もっと長い方がよいと思う。	秋休みについては、各学校で設定できることとなっています。その際には、授業時数の確保や、学習内容を確実に子どもたちに指導することなどに留意しています。	③
140	夏休みが長過ぎて、子どもが休み明けの勉強に上手く取り組めない。	子どもが休み明けの学校生活や学習活動に安心して取り組むことができるよう、学校での声掛けや変化の観察を今後も行ってまいります。	③
141	習い事と学校の授業で子どもの時間を圧迫している。小学校から選択制を授業に組み込んだり短縮授業にするなどのシステムを希望する。	小学校の授業時数の短縮を含め、子どもたちが主体的に学べる多様な学びの実現については、現在、国においても検討がなされているところです。各学校においても、引き続き、創意工夫ある学びの実現に取り組んでまいります。	③
142	英語教育において、英会話力の強化、グローバルコミュニケーション能力を身に付ける教育制度が必要。	グローバル人材として必要なコミュニケーション能力、異文化理解の精神、主体性・積極性などを子どもたちが身に付けられるよう、令和7年度から小中9年間をとおした指導を進めてまいります。	①
143	技術の進展を考えると、これからは外国語の文章の翻訳はAIが行うと思うので、英語の授業は対人でコミュニケーションを重視した内容に変更してはどうか。	法律で年齢と修業年限が決まっているため、義務教育期の飛び級は困難ですが、子どもの多様な可能性を伸ばす教育を進めていくために最善の方法を今後も研究してまいります。	③
144	スポーツや芸術分野などに突出した子どもを飛び級させたり、青田買いで専門的な教育を行ってほしい。	ミッション3の(4)③で、郷土や実社会とのつながりを実感し、意欲を高められる教育、そして、郷土愛の醸成と書くのであれば、「企業・地域との連携や専門人材の活用」を「地域・企業との連携や専門人材の活用」に変えるべきではないか。	③
145	ミッション3の(4)③で、郷土や実社会とのつながりを実感し、意欲を高められる教育、そして、郷土愛の醸成と書くのであれば、「企業・地域との連携や専門人材の活用」を「地域・企業との連携や専門人材の活用」に変えるべきではないか。	事業の継続性の視点から、「第2期北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」の記載を引用しています。	③
146	ミッション3の(4)③で、人権教育は、国際理解や福祉、キャリア、情報など諸教育の基礎と位置づけられているため、「福祉・国際理解・キャリア・情報・人権教育等」を「人権・福祉・国際理解・キャリア・情報教育等」に変えるべきではないか。	金融教育、職業体験を行ってほしい。	
147	金融教育、職業体験を行ってほしい。	法律教育を検討してほしい。社会のルールや権利について学ぶことで、子どもたちが公正な社会の一員としての意識を育む事ができると思う。	
148	法律教育を検討してほしい。社会のルールや権利について学ぶことで、子どもたちが公正な社会の一員としての意識を育む事ができると思う。	さまざまな職業の人が学校にくる「夢授業」をもっと多くの学校で行ってほしい。	
149	さまざまな職業の人が学校にくる「夢授業」をもっと多くの学校で行ってほしい。	教職員の負担軽減や地域連携、経済格差を同時に解決するひとつの方策として、高校生や大学生などの学生が、ボランティアとして出向いて教えることができるとよいのではないかと。また、目標に向かって能動的に学習・行動ができるよう、学校の社会見学や文化祭等の機会を通じて、北九州市の高校や大学が、小・中学生が進路を考える上でのきっかけ作りをして貰えると助かる。	①
150	教職員の負担軽減や地域連携、経済格差を同時に解決するひとつの方策として、高校生や大学生などの学生が、ボランティアとして出向いて教えることができるとよいのではないかと。また、目標に向かって能動的に学習・行動ができるよう、学校の社会見学や文化祭等の機会を通じて、北九州市の高校や大学が、小・中学生が進路を考える上でのきっかけ作りをして貰えると助かる。	保護者による自由勉強（家庭のことや職業の専門性など）を取り入れてもよいのではないかと。様々な仕事に携わる大人の講義があると、子どもの興味の幅が広がる。	
151	「将来〇〇になりたい!」と目標を持つ子どもが少ないと聞いている。小学生高学年あたりから将来のビジョンを想像できるように、また、目標に向かって能動的に学習・行動ができるよう、学校の社会見学や文化祭等の機会を通じて、北九州市の高校や大学が、小・中学生が進路を考える上でのきっかけ作りをして貰えると助かる。	企業へ「ファミリーデー」の啓蒙や普及を進めるとともに、社会科見学で親や親戚など、身近な大人が働く職場の見学ができる仕組みを構築してほしい。子どもが自分の親の働く姿を見れば、興味を持って社会科見学会に臨むと思う。	③
152	保護者による自由勉強（家庭のことや職業の専門性など）を取り入れてもよいのではないかと。様々な仕事に携わる大人の講義があると、子どもの興味の幅が広がる。	学校担当の司書が、授業の中で「お話し会」を行ってほしい。教員の負担を減らし、かつ、子どもたちに読み聞かせの環境を作れると思う。	③
153	企業へ「ファミリーデー」の啓蒙や普及を進めるとともに、社会科見学で親や親戚など、身近な大人が働く職場の見学ができる仕組みを構築してほしい。子どもが自分の親の働く姿を見れば、興味を持って社会科見学会に臨むと思う。	多様性を認めることは非常に有意義であるが、多様性ばかりに目を向けるのではなく、自分たちの生まれ育った日本に今一度目を向ける愛国心ある人間を育てる教育をしてはどうか。	③
154	学校担当の司書が、授業の中で「お話し会」を行ってほしい。教員の負担を減らし、かつ、子どもたちに読み聞かせの環境を作れると思う。	災害にも強い自立した子どもが増えるとうい。そのためには、学校に雨水タンクや浄水器を設置して、水の性質や浄化の仕組みをもっと詳しくわかりやすく学べるとうい。	③
155	多様性を認めることは非常に有意義であるが、多様性ばかりに目を向けるのではなく、自分たちの生まれ育った日本に今一度目を向ける愛国心ある人間を育てる教育をしてはどうか。	パンデミックや猛暑による飼育環境の悪化、動物アレルギーに対する配慮などから、学校で生き物を飼育しにくくなっている。工業都市という特色を生かして、学校でペットロボットを活用してはどうか。最新のテクノロジーに触れるだけでなく、ロボットへの接し方から子どものストレス具合を推し量ることもできるのではないかと。	③
156	パンデミックや猛暑による飼育環境の悪化、動物アレルギーに対する配慮などから、学校で生き物を飼育しにくくなっている。工業都市という特色を生かして、学校でペットロボットを活用してはどうか。最新のテクノロジーに触れるだけでなく、ロボットへの接し方から子どものストレス具合を推し量ることもできるのではないかと。	ホームページについては「北九州市立学校・幼稚園ホームページ」に集約しています。また、学校からの連絡業務については、保護者連絡アプリを導入し、学校の状況に応じて電子化を進めています。今後も、さらなる校務DXを進めることとしています。	①
157	ホームページについては「北九州市立学校・幼稚園ホームページ」に集約しています。また、学校からの連絡業務については、保護者連絡アプリを導入し、学校の状況に応じて電子化を進めています。今後も、さらなる校務DXを進めることとしています。	予算の関係でGIGA端末の修理ができず、快適に端末を使えない生徒がたくさんいる。同じ教材費を払いながら、ドリルアプリの利用にも支障がでている。また、利用の仕方に差も出ている。学校の予算で修理するのであれば、十分な予算を確保してほしい。	①
158	予算の関係でGIGA端末の修理ができず、快適に端末を使えない生徒がたくさんいる。同じ教材費を払いながら、ドリルアプリの利用にも支障がでている。また、利用の仕方に差も出ている。学校の予算で修理するのであれば、十分な予算を確保してほしい。	復習や休んだ時のために、授業の様子を動画で残して、いつでも勉強できるようにしてほしい。	③
159	復習や休んだ時のために、授業の様子を動画で残して、いつでも勉強できるようにしてほしい。		
160	復習や休んだ時のために、授業の様子を動画で残して、いつでも勉強できるようにしてほしい。		

- 【プランへの反映】について
- ① プランに記載済
 - ② プランに追加・修正をする
 - ③ プランに追加・修正はしない
 - ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
【ミッション4】 自律的で特色ある学校づくりを進め、教職員のウェルビーイングを高める			
161	子どもたちにとって、先生が人として尊敬できるようにならないと大人をなめてしまうと思う。	授業づくりや児童生徒理解、マネジメント力向上等の研修で、専門的知識や実践的指導力の向上を目指すだけでなく、倫理研修や企業体験研修により、社会人として自分を振り返り、知見を広げる機会を提供し、教職員の質の向上に努めています。	①
162	このプランを通じて、教員の質をどうあげようとしているのか。		
163	子どものいじめや自殺が増加しているが、原因は学校環境によるものだと思う。教員は限られた人員の中で余裕もなく必死にやっているが、このような状況で子どもたちに対して、思いやりや助け合い、相手を許すことなどを涵養する事は難しい。早急に優秀な教員を増やして欲しい。	優秀な人材の確保に向けて、令和6年度実施試験から「大学3年生前倒し一次選考」を追加するなど、一人でも多くの方に受験していただけるよう努めています。また、様々な研修機会を提供し、教職員の質の向上に努めています。	①
164	小学校低学年で先生が怖くて学校に行けないというのとても残念だ。学校の先生に余裕がないことが、子どもたちによくない影響を与えているのではないかと思うことがある。		
165	教職員の仕事を軽減してほしい。		①
166	子どもまんなかを掲げているが、現場で働く先生にとって「余裕を持って取り組めるだけの教育課程であるか」「行事であるか」「人員配置ができていないか」など疑問に思う。このプランの成果を出すためにも、今の先生の業務を削ることも含めて検討してほしい。	本市では、教職員のワーク・ライフ・バランスの充実、メンタルヘルス等の健康保持を業務改善の目的の一つとして掲げています。この実現のために「学校における業務改善プログラム<第3版>」を策定し、在校等時間の削減等に取り組み、教職員の業務に余裕を生むことができるよう、努めてまいります。	
167	ミッション4の②（教職員の負担軽減による教育環境の充実）で、ボランティアや副業を含め、教員の労働時間が適切に把握されるよう求める。	公務員は原則として副業が禁止されており、従事する場合は任命権者の許可が必要であるため、従事時間等については把握しているところです。ボランティア活動については、自発的な意志に基づき行われるものであるため、把握は困難ですが、教職員の労働時間の把握については適切に取り組んでまいります。	③
168	ミッション4の②で、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教員業務支援員等を支援スタッフではなく、「学校専門職など」としっかり定義するとともに、できる限り正規化を図るという文言を追加してほしい。	国の教育振興基本計画で、教員業務支援員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を支援スタッフと記載しているため、本プランでも同様に用いています。また、支援スタッフに対する財政措置の拡充を国に要望しています。	③
169	学校や子どもたちをサポートしたいと考えているが、どうしたらよいのか。	保護者や地域の方でボランティア登録をしていただいた、「スクールヘルパー」が、子どもの安全対策や教育活動への支援など、各学校の要望に応じた活動を行っています。また、教師の負担軽減を図るため、教員業務支援員（会計年度任用職員）を配置し、印刷業務や配布物の仕分けなど、多岐にわたり学校のサポートを行っています。	①
170	学校に勤務しているが、小学校1年生の登下校時の付き添いにかかる特別休暇を作ってほしい。小学校1年生の時だけでも、親が付き添い登校を出来れば安心だと感じる。	教職員の休暇制度は、国や他の地方公共団体の職員との権衡を考慮して定めています。子育て支援の休暇制度については、国などの状況を注視してまいります。	③
171	プランを実現するには、質の高い教員の確保が大前提であり、まずは教員の待遇改善に着手すべき。	教員を含む地方公務員の給与は、国や他の地方公共団体の職員や民間との均衡を基本として定められており、教員については、法律で優遇措置が講じられているところです。教員の待遇改善については、教職調整額の支給率見直しなどの議論が進められているため、今後の動向を注視し、適切に対応してまいります。	③
172	1クラスの定員を減らしたり、補助教員の増員を求める。	北九州市の学級編成基準は、義務標準法に基づき定められているところですが、小学校については、令和3年度より国に先駆けて全学年における35人学級を実現したところです。更なる基準の引き下げにあたっては、国の定数改善が必要であるため、引き続き、国への要望等を行ってまいります。	③
173	小学校のクラスの人数を20名程度とし、個々の成長にあわせた学習が出来るようにしてほしい。	また、全国的に教員不足が課題となる中で、定数を超える補助教員の増員は困難であると考えております。	
174	1クラスに先生を2人配置すると、子どもは安心できると思う。		
175	小中学校などの先生方にとって、働きやすい環境であるとともに休みを取れる職場にして欲しい。子どもたちの1番近くにいる大人が、生き生きと仕事をしたり遊びを楽しむ事が必要だと思う。		
176	不登校の子どもや親にとって「学校に行くことが絶対ではない」、「無理せずほかの居場所を見つけよう」という考えは救いである一方、昔のように先生が子どもたちに構ってくれることも必要かも思った。まずは、現場の先生が、市の掲げた理想を実現できる職場環境で働くことができるようになることが必要だと思う。	各学校における教職員と支援スタッフの連携・分担による「チーム学校」の推進や、校務のデジタル化等を進めることで、教職員の負担軽減による教育環境の充実を図り、子どもたちが安全に安心して過ごすことができる学校づくりを今後も目指してまいります。	①
177	先生の働く職場が家族的で仲が良ければ学校は発展していく。先生が、自分自身をみとめて安心してまわりと接して行けるような場や材料が提供されるとよい。		
178	子どもが幸せになるためにも、先生が幸せを感じられるような職場環境や制度をつくってほしい。		
179	専科の教員を増やすことで、担任の先生もゆとりができるのではないかな。	教員の負担軽減を図ることを目的に、小学校における教科担任制を推進するほか、多様化する学校教育への対応とその活性化を図るため、各分野において優れた知識を有する社会人を特別非常勤講師として任用し、各学校に配置する取組を実施しています。教員の負担軽減や学びの多様化に対応するため、引き続き、取組を推進してまいります。	③
180	学びが多様化するのであれば、専門を学んだ先生が増えるとういのではないかな。		
181	AIなどを活用することで、それぞれの先生の得意な分野を活かした人員配置ができるのではないかな。	教職員の人事配置にあたっては、教職員個々の能力や適性、希望等を総合的に考慮した配置を行っているところです。教職員がその能力を最大限発揮できるよう、効果的な人事配置の方法を研究するとともに、適切な人事配置に努めてまいります。	③
182	学校の先生に不足が出た場合、市役所の一般職員で教員免許を持っている人を派遣すれば、先生の欠員にも素早く対応できるのではないかな。	教員確保の取組の一つとして、教員免許を保有しているものの教職に就いていない方を対象に、教員として働くことを支援するペーパーティーチャー支援講座を開催しており、こうした取組を、市役所職員にも周知してまいります。	③
183	多忙を極める教員はストレスが多いと思うが、校門のすぐ外でたばこ休憩をする人を見かけることがあり、とても気になる。子どもの受動喫煙防止の観点からも、現状の把握と数値目標を掲げて、早急に教員の禁煙プログラムに取り組む必要があるのではないかな。	本市立学校（園）では、平成22年度から「敷地内全面禁煙」を実施しています。教職員に限らず、保護者や地域住民等の学校利用者に対しても、敷地内禁煙及び学校周辺での喫煙マナーへの配慮について、引き続き周知徹底してまいります。	③

【プランへの反映】について
 ① プランに記載済
 ② プランに追加・修正をする
 ③ プランに追加・修正はしない
 ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
【ミッション5】 地域とのつながりの中で、社会全体で子どもを見守り支え、育てる			
184	学校のPTA活動は大切だが、核家族や共働き、習い事等を考えると負担が大きいので、シルバー人材の活用などの外部委託ができる負担が減って助かる。	学校にとって、PTAは最大の応援団です。社会全体で子どもたちを支えていくことが求められる中、その要となるPTAの役割は重要です。PTAだけではなく、多くの方々に参加していただくために、保護者や教職員、学校の関係者、地域住民などに学校の活動を理解していただく取組を進めてまいります。	③
185	市としてPTAのあり方を検討してほしい。地域や家庭との連携において、単純にPTAとの連携で解決できるものではないと考える。	シルバー人材活用などの負担軽減策については関係団体に伝え、今後の参考とさせていただきます。	
186	子どもまんなかは、学校教育だけに求めるのではなく、家庭がそうならなければならない。家庭の役割を明確にしてこそ、子どもまんなかである。	子どもが健やかに成長していくためには、学校、地域、家庭がそれぞれの役割を果たしながら連携して育むことが重要であるため、つながりを大切にしていきたいです。	①
187	家庭訪問が負担に感じている。廃止している自治体もあるので、北九州市も廃止または、中学のように家庭確認してほしい。	家庭訪問は、教師と保護者が子どもについて直接話し合い理解を深める貴重な機会の1つと考えています。場の設定については、保護者と相談しながら、検討してまいります。	③
188	ミッション5の(2)②(家庭との連携)で、貧困や家庭内暴力などで特に顕著なものは、他部署と連携した対応を求める。	家庭環境の問題が大きい場合、関係機関で情報を共有し、警察等の機関とも連携を図りながら子どもを見守り、適切に対応してまいります。	③
189	学校同士の横の交流があるといいのではないかな。	小中連携や小・小連携の観点から、現在さまざまな中学校区で、交流授業や活動を行っています。今後、より効果的な取組になるよう努めてまいります。	③
190	かつての学校は地域の拠点だった。運動会や地域の行事のシーンを回想したとき、その背景には校舎が映っていた。町内会の活動がコロナにより一気に衰退し、活動縮小が継続・定型化されつつある。様々な施策を盛り込んでいるが、校長を先頭に教員に委ねるだけでなく、地域・町内が学校単位で活動できるようにする取組をこの計画に盛り込み、地域全体が子育てに寄与するという、地域で支える仕組みを計画に盛り込んでほしい。高齢者の側からみれば、それが地域包括ケアの推進にも寄与すると思う。	現在、地域とともにある学校づくりとして、「コミュニティ・スクール」を進めています。地域と学校と一緒に子どもたちのためにできることを、各学校の学校運営協議会で話し合っています。地域とのつながりの中で、社会全体で子どもを見守り育て、支える取組を進めてまいります。	①
191	地域と学校と分けるのではなく、地域に開かれた学校になって行き来が活発になれば、子どもたちは多様な価値観に触れることができ、成長できるのではないかな。		
192	「子どもが好きなことに夢中になり、安心して挑戦し、失敗を楽しめる環境」をつくるには、学校外の地域の力も不可欠ではないかな。		
193	ニュースなどで、部活動を学校ではなく地域でやるという話題を耳にする。子どもの親として、北九州市の部活動が今後どうなるのか、このプランでわかるとよいのではないかな。		
194	勉強も大事だが、少年野球やサッカークラブなどスポーツに特化したクラブ活動を小学校でも運用してほしい。		
195	中学校には部活があるが、種類が少ないことやその中にやりたいことがないことも多い。キャンプ部や映画研究部、ボランティア部、探検部、カラオケ部などを掛け持ちができるとともに、幅広い選択ができるシステムを希望する。	少子化が進む中で、部活動を充実するためには、学校だけでなく、家庭や地域、企業などと連携して地域全体でスポーツ・文化芸術活動の環境整備を進める必要があり、現在、段階的な地域移行を検討しています。子どもたちが自分らしく取り組めるための活動を推進するとともに、その考え方をプランにも追記します。	②
196	中学の部活動の運営にあたっては、退職した先生を部活動の専属教員としたり、大学の授業の単位となるようにして、大学生を雇ってはどうか。		
197	授業でダンスが取り入れられているが、部活動では聞かないので、ダンス部をつくってほしい。我が子が中学生になったときにあるといいと思った。		
198	ミッション5の(2)①に「地域との連携」があるが、町内会の未加入が進み、地域の力が弱くなっている。このプランに地域コミュニティを再建する施策を盛り込んだほうが良い。	本プランでは、地域とのつながりの中で、社会全体で子どもを支え、育てることとしています。ご指摘の点については、関係部局に伝え、今後の参考とさせていただきます。	③
199	学校外の子どもの行いを、学校にクレームを言う大人がいるようだが、そういったことは不適切であることと言ってもよいのではないかな。	学校に対する過度な要求である場合は対応が難しい場合もありますが、学校外の行いに関するご意見がその子どもの成長につながる場合は、生徒指導の参考とさせていただきます。	③

【プランへの反映】について
 ① プランに記載済
 ② プランに追加・修正をする
 ③ プランに追加・修正はしない
 ④ その他

No	意見の概要	市の考え方	プランへの反映
その他			
200	ある私立高校の教育課程で、地域の方と協力した子ども食堂をつくりたいと考えているが、資金が足りない。	北九州市では、子ども食堂の開設を考えている民間団体や既存の民間団体等の取組に対し、開設や拡充、運営にかかる費用を補助する制度があります。	④
201	連休を分散化してはどうか。連休を分散化しないと、レジャー施設や里帰りでの渋滞や待ち時間が増加し、遊ぶ時間が減ってしまう。	祝日については、「国民の祝日に関する法律」に基づき国が定めるものである。	④
202	北九州市立大学の授業をすべて英語で行えばいいと思う。それくらい魅力のある大学が北九州市にあれば、大学進学時の人材流出が防げるだけでなく、福岡市に流れる人材を取り込める。		
203	教員不足対策のため、北九州市立大学に教育学部を新設してはどうか。		
204	通所受給者証の負担額の所得制限や、特別児童扶養手当の所得制限をなくして欲しい。		
205	高校生までの医療を無償化すべき		
206	まちなかを当たり前のように、歩きながらたばこを吸ってる方が多い。品格やエチケットも考え、スモークエリアを作ることが大事だと思う。		
207	北九州市はハード面の設備は立派なものが多いので、ソフト面である人員育成に力を入れるとよいのではないかと。具体的には、保育や療育の現場が人手不足であったり質の面で少し不安を覚えることがある。		
208	学童保育の時間を19時まで伸ばして欲しい		
209	学童の先生の人員を増やして、子どもたちの様子を手厚くみてもらえるとよい。		
210	学童保育の開始時間を、最低でも学校の開始時間と同じ時間にして欲しい。		
211	学童や預かり保育など、働く子育て世代のために有り難い制度もあるが、子どもと保護者がもっと密に過ごせる環境を整える方がよいのではないかと。		
212	ある私立幼稚園の教員が上から目線で、対応に困っている。		
213	親に余裕がないと、子どもを見ることができなくなり、結果的に子どもの自己肯定感が下がると思う。そのためにも、幼稚園の全日給食化または弁当化が必要だと思う。		
214	国の児童手当とは別に、北九州市が独自の手当を支給するなど、子ども一人当たりの手当てを増額すべき。		
215	親世代が、夢や希望を失っていたり、人間関係に苦労しているのでも、子どもを取り巻く環境を変えるには、まずは一番身近な親や家族を支援してはどうか。		
216	不登校、メディア依存、貧困、教職員の過重労働など改善するには、乳幼児期の保護者の支援が不可欠だと考える。	ご意見については、関係部局に伝え、今後の参考とさせていただきます。	④
217	①妊娠、出産、育児期の切れ目ない支援 ②子育て支援情報の提供 ③子育てと仕事を両立しやすい環境づくり ④子どもの成長過程に応じた講座（研修会）等の実施 ⑤子育てや子どもの発達、教育等についての相談受付窓口の設置 ⑥障がいや発達に課題のある子どもの（親含む）支援など、子どもを観る・育てる者への支援を拡充してほしい。		
218	熊本市が行っている、「チョイソコくまもとキッズ」（自宅と習い事先・学習塾・児童育成クラブ等までの間を複数の児童が乗り合わせ、それぞれの希望の場所に送り届ける実証実験）を北九州市でも検討して、実施してほしい。		
219	門司港の複合公共施設計画について、学習場所の総面積がかなり減少しているようであり、かつ、門司港が誇るであろう鉄道遺構を壊すということで、地域の理解度が減る可能性があるのではないかと。		
220	小さい子どものために、身近な公園は砂利ではなく芝にしてほしい。		
221	公園で子どもたちが遊んでいたらクレームが学校に入ったりする。元気な子どもたちが我慢させられており、それが、好きな事に挑戦し、失敗を楽しめることの妨げになっているのではないかと。くつろげる公園と、ボールなどで遊べるプレイスペースを分け、高齢者と子どもたちのお互いが楽しく過ごせる環境を計画してほしい。		
222	北九州市は子育てNo1と聞いてワクワクしていたが、公園の禁止事項が多いため、お年寄り、若い世代が分断して生活している感じがして、温かみがなく残念だ。		
223	「遊びから学びがある」と言うが、北九州市は古い公園ばかりで遊ぶ場所がないと思う。		
224	グリーンパークや平尾台のトイレ改修をお願いする。今の子どものほとんどが洋式トイレしか使えないのにも関わらず和式のトイレが多いため、数少ない洋式トイレが混雑する。そして少し暗いため、小さい子どもが怖がる。		

